

地震

八幡 震度5強 屋根瓦、塀など被害 公共施設にも影響

18日朝の地震は大阪、京都府を直撃し、八幡では震度5強を記録しました。その後の余震も続いており、災害への警戒、備えが必要です。

民家での屋根瓦や壁の被害、公共施設でも学校給食への影響、漏水、亀裂などの被害も起きています。

防災対策

小学校にも 防災備蓄

日本共産党の八幡市6月議会での追及で防災分野で一步前進しました。また市の「財政削減」方針による教育分野での影響が浮き彫りとなりました。

日本共産党市議団は、避難場所である小学校に防災備品を設置するよう求めてきました。

3月の防災計画の見直しで、避難所に指定された市内の学校施設は11校。すでに備蓄がある男山三中、八幡東小（備蓄済み）以外は防災備蓄がありませんでした。今年度から、男山二中、くすのき

避難場所 11校中7校に

小、さくら小、橋本小、南山小にも備蓄されるようになりました。各校の備蓄内容は、毛布100枚、マンホールトイレ3~4台とわずか。市は、今後、廃棄期限のない物資などを中心に配備していくと答えました。

備蓄のない八幡小、中央小、有都小は教育委員会と調整する方向となりました。美濃山小は現在、余裕教室がなく、今後の空き教室の動向を見極める方向です。学校外では、府消防学校にも新たに備蓄しています。

八幡市の財政カット

教育分野でしわ寄せ

中学1年 スキー学習 来年度から廃止へ

教育分野の予算削減で、中学1年生の冬季に実施している1泊2日のスキー学習を来年度入学の1年生から廃止します。市教育委員会は、就学援助などの支出が膨らむことなどを理由にしていますが、財政事情を理由に事業を廃止することが妥当なのか、市民的な議論が必要ではないでしょうか。

小学校のクラブ備品補助を廃止

小学校では、子どもたちの趣味や関心を生かしたクラブ活動にたいし、備品購入費用として8校に計100万円を助成していましたが、今年度からこれを廃止し、学校内の予算内で配分するように変更しました。クラブ費用の切り詰め、校内活動への影響が懸念さ

れます。

学校図書購入費22.5%カット

小中学校の図書購入費は、「蔵書冊数の充足」を理由に22.5%、211万円を削減しました。

小中学校の理科教育設備の整備費を「国基準を充足した」として、予算を半減。小学校では400万円を200万円に中学校は200万円を100万円に減らしました。

財政効果を優先した教育関連の予算削減は、子どもたちの教育環境をきちんと整備できるのか、教育費の予算削減により関係者の負担にしわ寄せが来るのではないかと懸念があります。